

2025年度 春学期
学生による授業評価と授業改善のためのアンケート

結 果
(全体集計抜粋版)

1. 全体集計

全体集計	履修者数	2628	回答者数	2062	回答率	78.5%
------	------	------	------	------	-----	-------

区分	質問番号	質問内容	0% 20% 40% 60% 80% 100%							得点	
学生の取り組み	1	学生全体の授業態度はよかった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q1]							4.33	
	2	あなた自身の授業態度はよかった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q2]							4.33	
	3	予習、復習を行った。	[Bar chart showing distribution of responses for Q3]							3.50	
	3a	1回の授業のために予習と復習に費やした平均時間	[Bar chart showing distribution of responses for Q3a]							0.50	
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。	[Bar chart showing distribution of responses for Q4]							3.98	
授業の内容、方法、教員の取り組み	5	授業の難易度は適切だった。 <small>選択肢右の括弧内数値は配点。 不明(無回答を含む)回答は除く。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 難しすぎた(2) □ やや難しかった(1) □ 適切だった(0) ▨ やや易しかった(-1) ▩ 易しすぎた(-2) 							0.41	
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。	[Bar chart showing distribution of responses for Q6]							4.48	
	7	授業はよく準備・工夫されていた。	[Bar chart showing distribution of responses for Q7]							4.50	
	8	授業(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q8]							4.49	
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q9]							4.48	
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。	[Bar chart showing distribution of responses for Q10]							4.39	
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q11]							4.55	
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。	[Bar chart showing distribution of responses for Q12]							4.53	
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。	[Bar chart showing distribution of responses for Q13]							4.45	
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。	[Bar chart showing distribution of responses for Q14]							4.60	
	全体的な評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q15]							4.45
		16	この授業を受けて満足している。	[Bar chart showing distribution of responses for Q16]							4.50
		19	この授業であなた自身の集中を妨げるようなことが、よくあった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q19]							2.59
	授業状況に関する質問	20	この授業の教材(テキスト、配布資料など)は、あなた自身にとって理解しやすかった。	[Bar chart showing distribution of responses for Q20]							4.33
		21	この授業で他の履修者(学生)と協力しあえた。	[Bar chart showing distribution of responses for Q21]							4.57

グラフ凡例(質問 5 を除く)

選択肢	強く そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	不明 (含無回答)	(注)
配点	5	4	3	2	1	-	-
選択肢 3a	4 時間以上	2 時間から 4 時間未満	1 時間から 2 時間未満	30 分から 1 時間未満	30 分未満	-	-
配点	4	3	1.5	0.75	0.25	-	-

グラフ内数字は回答数

得点の計算について
各回答選択肢の配点の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

注: 質問番号 21 の選択肢「この授業でグループワークや助け合う状況はなかった」

注: 履修者数はアンケート実施科目の延べ人数

演習・実技	履修者数	1258	回答者数	1000	回答率	79.5%
-------	------	------	------	------	-----	-------

区分	質問番号	質問内容	0% 20% 40% 60% 80% 100%							得点	
学生の取り組み	1	学生全体の授業態度はよかった。	445 355 90 24 84							4.33	
	2	あなた自身の授業態度はよかった。	418 376 101 21 84							4.30	
	3	予習、復習を行った。	203 255 269 118 71 84							3.44	
	3a	1回の授業のために予習と復習に費やした平均時間	61 200 644 84							0.48	
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。	368 275 193 66 14 84							4.00	
授業の内容、方法、教員の取り組み	5	授業の難易度は適切だった。 <small>選択肢右の括弧内数値は配点。 不明(無回答を含む)回答は除く。</small>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 難しすぎた(2) □ やや難しかった(1) □ 適切だった(0) □ やや易しかった(-1) ■ 易しすぎた(-2) 							0.44	
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。	533 285 90 14 84							4.47	
	7	授業はよく準備・工夫されていた。	558 255 83 13 84							4.47	
	8	授業(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。	551 257 91 13 84							4.46	
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。	544 270 89 15 84							4.46	
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。	508 273 104 23 84							4.37	
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。	601 221 70 13 84							4.52	
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。	590 229 82 13 84							4.52	
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。	521 267 107 10 84							4.40	
	14	教員の取り組み姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。	627 206 72 15 84							4.58	
	全体的な評価 授業状況に関する質問	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。	523 285 75 23 84							4.41
		16	この授業を受けて満足している。	555 254 84 15 84							4.46
		19	この授業であなた自身の集中を妨げるようなことが、よくあった。	70 180 185 181 300 84							2.50
		20	この授業の教材(テキスト、配布資料など)は、あなた自身にとって理解しやすかった。	472 289 127 24 84							4.31
21		この授業で他の履修者(学生)と協力しあえた。	631 191 68 14 84							4.58	
グラフ凡例(質問5を除く)			グラフ内数字は回答数								
選択肢		強く そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	不明 (含無回答)	(注)	得点の計算について 各回答選択肢の配点の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。 注: 質問番号 21 の選択肢「この授業でグループワークや助け合う状況はなかった」		
配点	5	4	3	2	1	-	-				
選択肢 3a	4時間以上	2時間から 4時間未満	1時間から 2時間未満	30分から 1時間未満	30分未満	-	-				
配点	4	3	1.5	0.75	0.25	-	-				

注:履修者数はアンケート実施科目の延べ人数

講義	履修者数	1370	回答者数	1062	回答率	77.5%
----	------	------	------	------	-----	-------

区分	質問番号	質問内容	0% 20% 40% 60% 80% 100%					得点	
学生の取り組み	1	学生全体の授業態度はよかった。	503 438 97 23					4.33	
	2	あなた自身の授業態度はよかった。	503 442 101 14					4.35	
	3	予習、復習を行った。	235 347 306 121 53					3.56	
	3a	1回の授業のために予習と復習に費やした平均時間	6 81 254 705					0.53	
	4	わからないところは積極的に質問するように心がけた。	364 378 247 58 5					3.96	
授業の内容、方法、教員の取り組み	5	授業の難易度は適切だった。 <small>選択肢右の括弧内数値は配点。 不明(無回答を含む)回答は除く。</small>						0.40	
	6	シラバスに沿った内容、方法で授業が行われた。	621 354 85 2					4.50	
	7	授業はよく準備・工夫されていた。	655 331 64 1					4.53	
	8	授業(テキスト、配布資料など)の活用は適切だった。	645 334 74 1					4.52	
	9	黒板/ホワイトボードや視聴覚教材の使用は、効果的だった。	632 333 85 1					4.49	
	10	学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。	568 389 90 1					4.42	
	11	教員の話し声は聞き取りやすかった。	720 261 67 1					4.58	
	12	教員は、学生の質問や疑問、意見に適切に対応した。	669 297 90 1					4.53	
	13	教員は、私語などを注意し、授業環境を適正に保つ配慮をした。	632 340 76 1					4.50	
	14	教員の取り組む姿勢に熱意、誠実さ、真剣さを感じた。	725 272 62 1					4.62	
	全体的な評価	15	この授業に関連する内容への関心が深まった。	632 334 83 1					4.49
		16	この授業を受けて満足している。	666 308 78 1					4.53
		19	この授業であなた自身の集中を妨げるようなことが、よくあった。	93 267 204 196 302					2.67
	授業状況に関する質問	20	この授業の教材(テキスト、配布資料など)は、あなた自身にとって理解しやすかった。	523 410 115 1					4.35
21		この授業で他の履修者(学生)と協力しあえた。	712 253 69 1					4.56	

グラフ凡例(質問 5 を除く)

選択肢	強く そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	不明 (含無回答)	(注)
配点	5	4	3	2	1	-	-
選択肢 3a	4 時間以上	2 時間から 4 時間未満	1 時間から 2 時間未満	30 分から 1 時間未満	30 分未満	-	-
配点	4	3	1.5	0.75	0.25	-	-

グラフ内数字は回答数

得点の計算について
各回答選択肢の配点の総和を回答総数で割ったもの。但し、不明回答については計算から除外。

注: 質問番号 21 の選択肢「この授業でグループワークや助け合う状況はなかった」

注: 履修者数はアンケート実施科目の延べ人数

春学期全体集計について

1 概況および回答率

1-1 概況と集計対象期間の設定

本報告書における集計は、2025年度春学期に実施されたFD授業アンケートの全体結果に基づいている。科目構成や学生の学業への習熟度など、学期ごとの状況は異なるが、本報告書では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受ける以前の2019年度までの状況に加え、初めて影響を受けた2020年度春学期以降の状況との比較を重視する。これは、各教員が対面・遠隔を問わずに行った授業改善の取り組みや、全学的な授業改善の成果として2025年度春学期の授業状況があるという考えに基づいているためである。比較対象期間として、2020年度春学期から前学期の2024年度秋学期までを設定し、必要に応じて2019年度のデータを参照した。

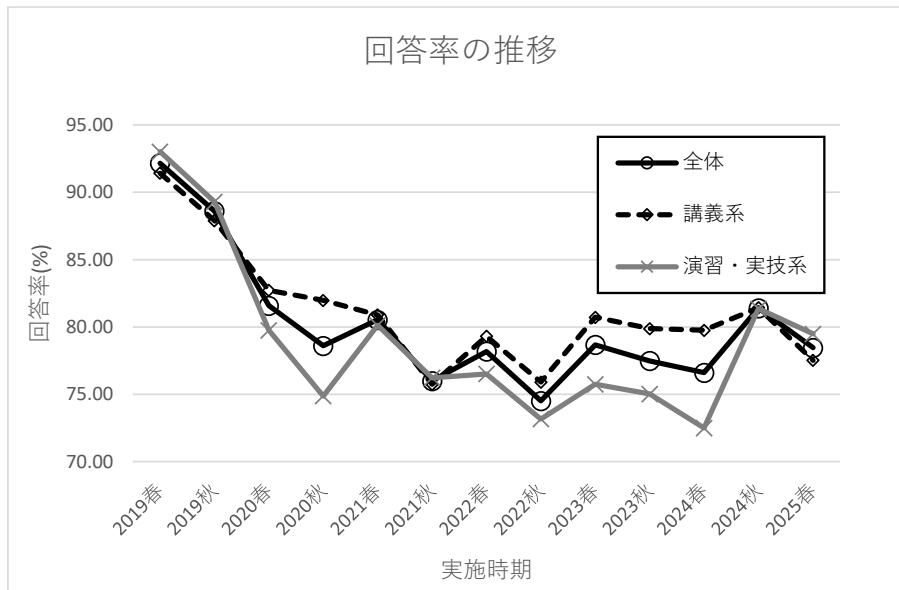
なお、調査対象科目については、学期によって実技系科目が含まれない場合があるため、他の学期との継続性を考慮し、講義に加え、演習系科目を「演習・実技系」と表記し、集計した。ただし、一部の図表などでは「演習」と簡略化している。科目数の計上においては、班分けを行った科目は全体で1科目としたが、習熟度別クラスとしたものは別科目として取り扱った。

1-2 回答率について

2025年度春学期の回答率は78.46%（アンケート実施科目の延べ履修者数2,628人に対し、延べ回答者数2,062人）であった。これは、2024年度春学期の回答率76.60%から1.86ポイント増加した。

しかし、コロナ禍前の2019年度同学期の回答率92.16%と比較すると、13.70ポイントの低下であり、回復には至っていない。初めてオンラインでアンケートを実施した2020年度春学期の回答率81.59%と比較しても、なお回答率の改善の余地があると言える。今回は、回答率が特に低い一部の科目に対し働きかけを行ったが、委員会による目視判断に基づいたものであり、対応が十分ではなかった可能性がある。高い回収率を確保するためには、実施手順の徹底と、学生の回答を促す環境の工夫が求められる。具体的には、担当教員が担当科目の実際の回答率を参照できるようにするなど、回答率改善に向けた一層の取り組みが必要である。また、教員からの働きかけとは別に、委員会からも学生への回答奨励を行う必要がある。

授業種別ごとの回答率では、講義系が77.52%、演習・実技系が79.49%であった。2024年度春学期との増減を比較すると、講義系では2.23ポイントの減少であったが、演習・実技系では7.00ポイントの大幅な増加を示しており、演習・実技系が講義系よりも高い伸びを見せた。秋学期においては、講義系科目の回答状況の確認に特に留意したい。

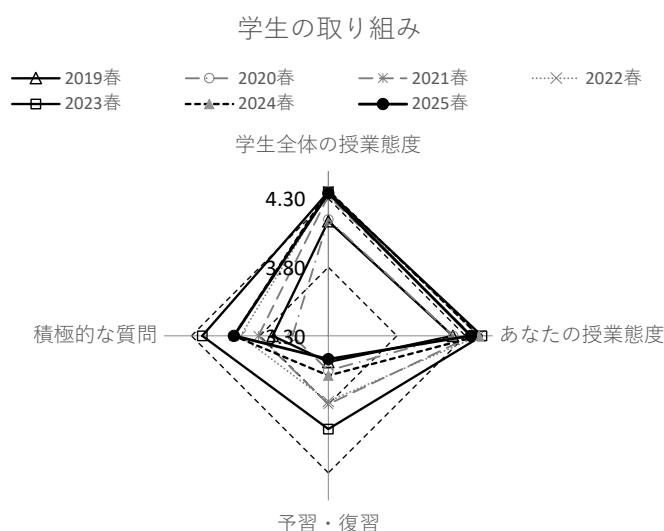
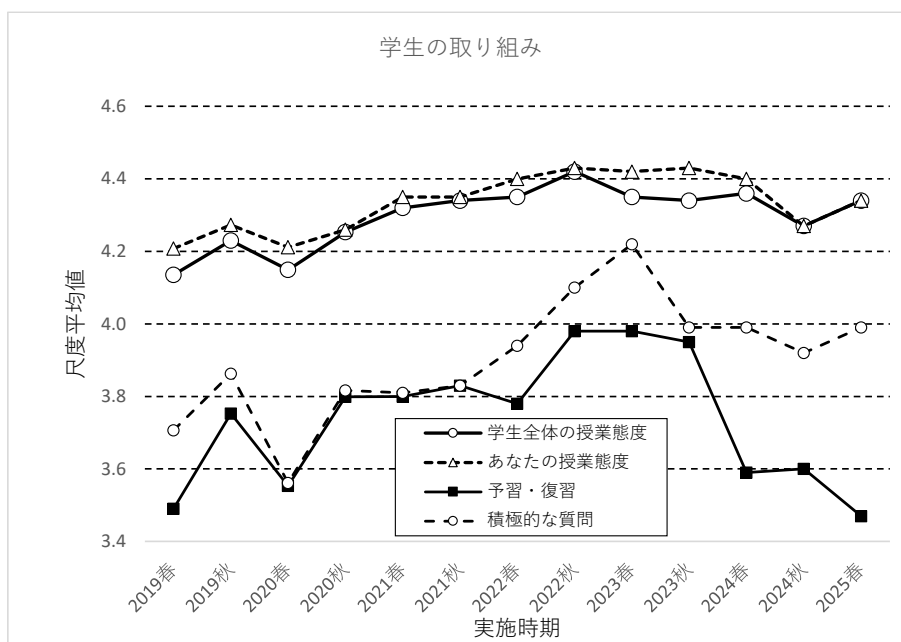


2 全体集計結果

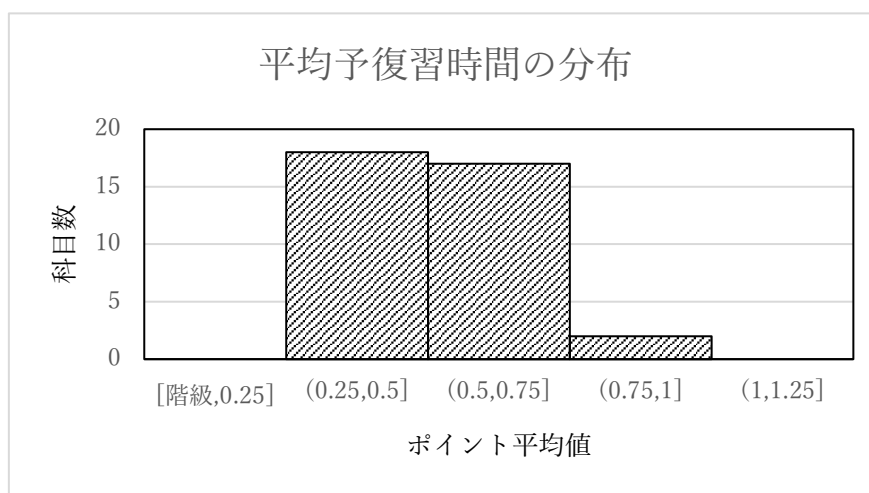
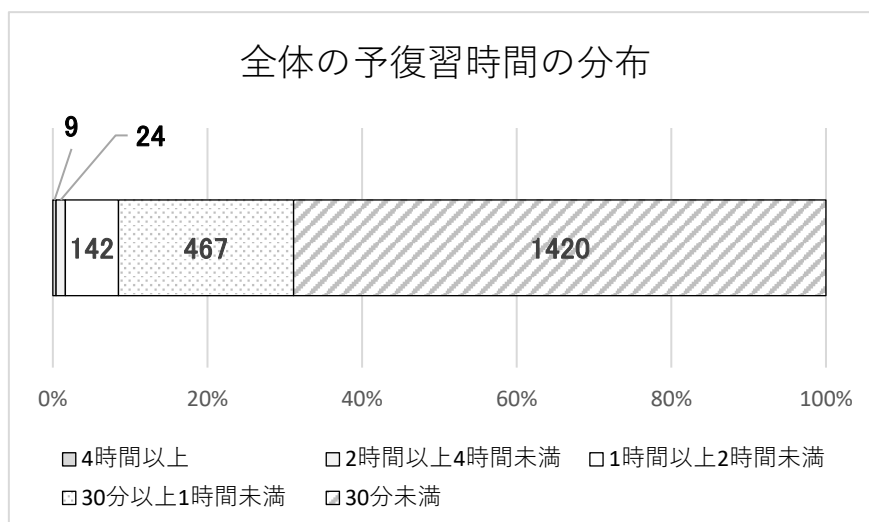
2-1 学生の取り組み

本アンケートは基本的に 5 件法で実施され、「強くそう思う」-「全くそう思わない」を順に 5 から 1 点の重み付けをして集計した。春学期の傾向については 2019 年度から 2023 年度までは上昇傾向にあり、全体的に高い値を示していたが、2024 年度春学期と比較すると全体的に微減傾向にある。

質問項目の平均値は、質問 1「学生全体の授業態度はよかった。」が 4.34、質問 2「あなた自身の授業態度はよかった。」が 4.34、質問 3「予習・復習を行った。」が 3.47、質問 4「わからないところは積極的に質問するように心がけた。」が 3.99 であった。2024 年度春学期と比較すると、質問 4 以外（質問 2、質問 3）は平均値が下降している。予復習時間を問う設問を追加する前の 2023 年度春学期との比較では、質問 2 と質問 3 の回答の差は 0.44 ポイントであったが、2024 年度春学期が 0.81 ポイント、2025 年度春学期が 0.87 ポイントへと拡大している。予復習時間に関する設問が加わったことで、質問 3 の回答が減少傾向にある一方で、質問 2 との乖離が拡大しており、予習・復習が授業の一環であるという意識づけが、さらに必要であると考えられる。



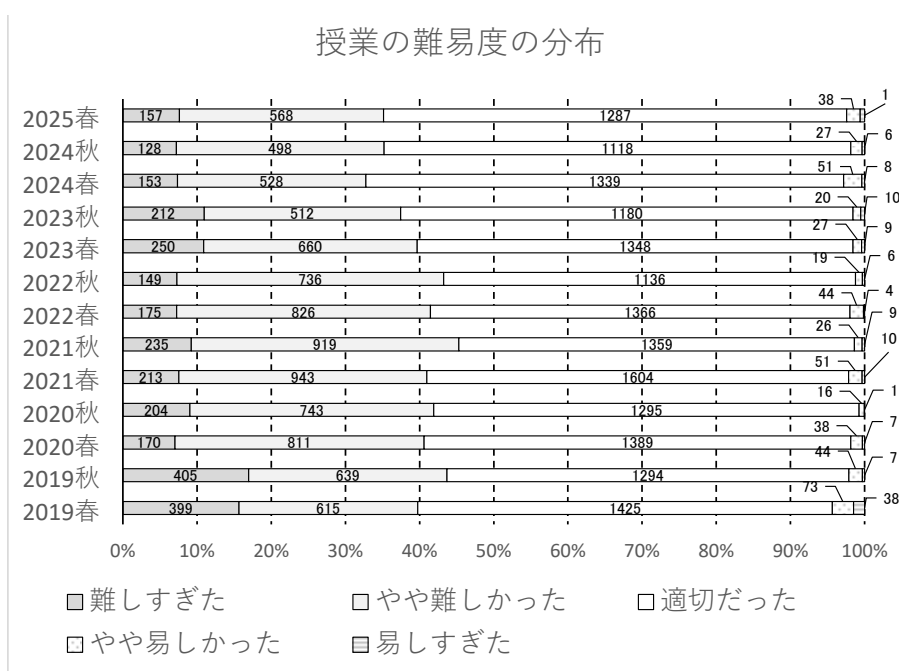
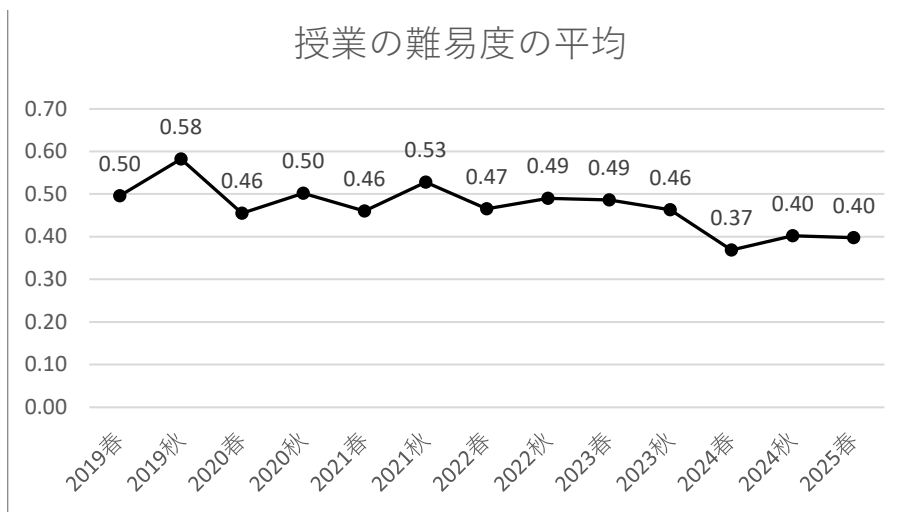
予復習時間に関する自己評価では、半数以上、およそ7割弱の回答で30分未満という自己評価であった。予復習時間ごとのポイント換算（4時間以上:4, 2時間以上4時間未満:3, 1時間以上2時間未満:1.5, 30分以上1時間未満:0.75, 30分未満:0.25）を用いて科目ごとの平均値を算出したところ、アンケート対象科目の95%が0.75以下となり、回答全体の平均は0.50であった。これは2024年度春学期の0.59, 2024年度秋学期の0.55から減少している。学期末に全15回の授業の平均を自己評価するという設問の性質や、多くの予復習時間を必要とするゼミ授業や実習関連科目がアンケート対象に含まれていないことを考慮しても、学生が予復習に取り組めるような適切な課題設定が求められる。



2-2 授業の内容、方法、教員の取り組み

(1) 難易度について

質問 5「授業の難易度は適切だった」の回答平均値は 0.40 であり、2024 年度春学期平均値 (0.37) に引き続き、全体としては概ね難易度が適切な科目が多かったと判断できる。「難しすぎた」、「やや難しかった」の割合が 7.6%、27.5%であり前年度春学期から「難しすぎた」「やや難しかった」は微増した(2024 年度秋 7.2%,28.0%, 2024 年度春 7.4%,25.4%, 2023 年度秋 11.0%,26.5%, 春 10.9%,28.8%, 2022 年度秋 7.3%,36.0%, 春 7.2%,34.2%, 2021 年度秋 9.2%,36.1% 春 7.5%,33.4% 2020 年度秋 9.0%,32.9% 春 7.0%,33.6%, 2019 年度秋 17.0%,26.7% 春 15.6%,24.1%)。2020 年度以降、「難しすぎた」は低い水準にあり、難易度に配慮しながら授業を行っていることが窺える。しかし、この結果は質問 16「この授業を受けて満足している」の結果と関連づけて見る必要があり、35.1%の学生が難易度は高いと感じていることに配慮しなければならない。

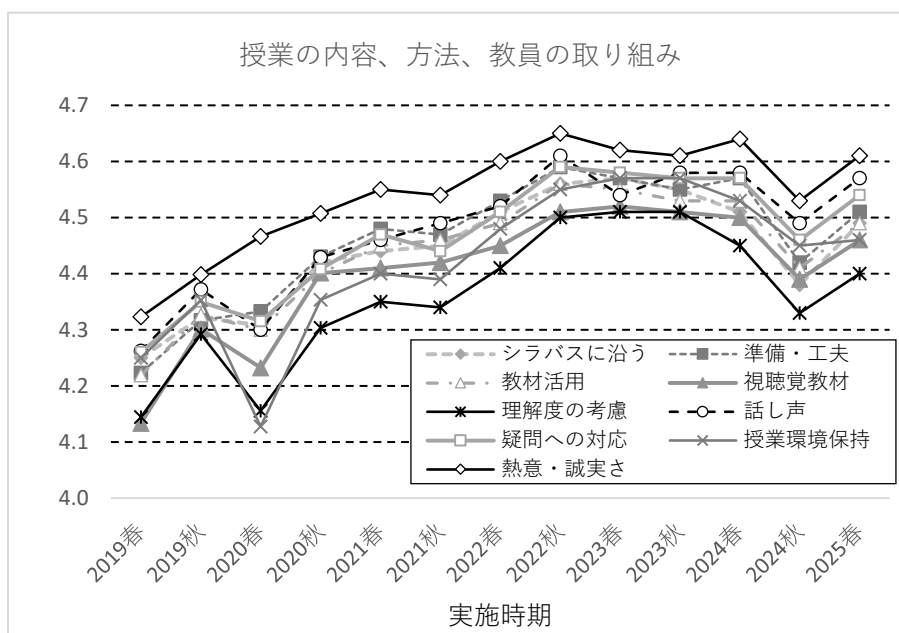
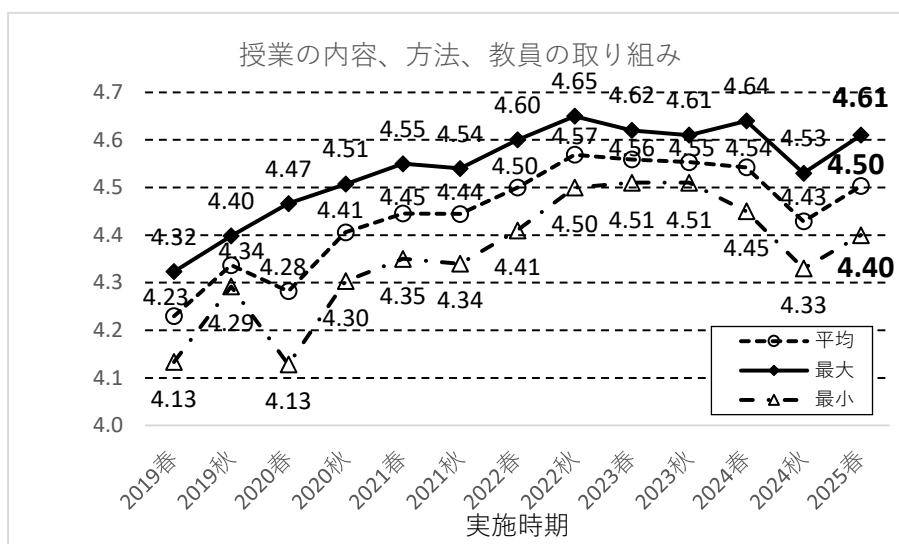


(2) 授業への取り組み

本区分の今年度春学期の質問 6 から 14 の授業の内容，方法，教員の取り組みについての項目を平均した値は 4.50，レンジ 4.61～4.40 であり全て 4.0 以上で高い評価を得た。最も高得点(4.61)であったのは昨年度同様，質問 14「教員の取り組む姿勢に誠意，誠実さ，真剣さを感じた。」であり，次に高得点(4.57)であったのは質問 11「教員の話し声は聞き取りやすかった」(グラフ凡例：「話し声」)であり，以下の様に続く，質問 12「教員は，学生の質問や疑問，意見に適切に対応した。」(グラフ凡例：「疑問への対応」)(4.54)，質問 7「授業はよく準備・工夫されていた。」(グラフ凡例：「準備・工夫」)(4.51)，質問 6「シラバスに沿った内容，方法で授業が行われた。」(グラフ凡例：「シラバスに沿う」)(4.48)，質問 8「授業(テキスト，配布資料など)の活用は適切だった。」(グラフ凡例：「教材活用」)(4.49)であった。残り 7,9 位は順に質問 9「黒板・ホワイトボードや視聴覚教材の使用は，効果的だった。」(グラフ凡例：「視聴覚教材」)(4.46)，質問 13「教員は，私語などを注意し，授業環境を適正に保つ配慮をした。」(グラフ凡例：「授業環境保持」)(4.46)，質問 10「学生の理解度，習熟度を考慮して授業が進められていた。」(グラフ凡例：

「理解度の考慮」(4.40)が最下位になっている。

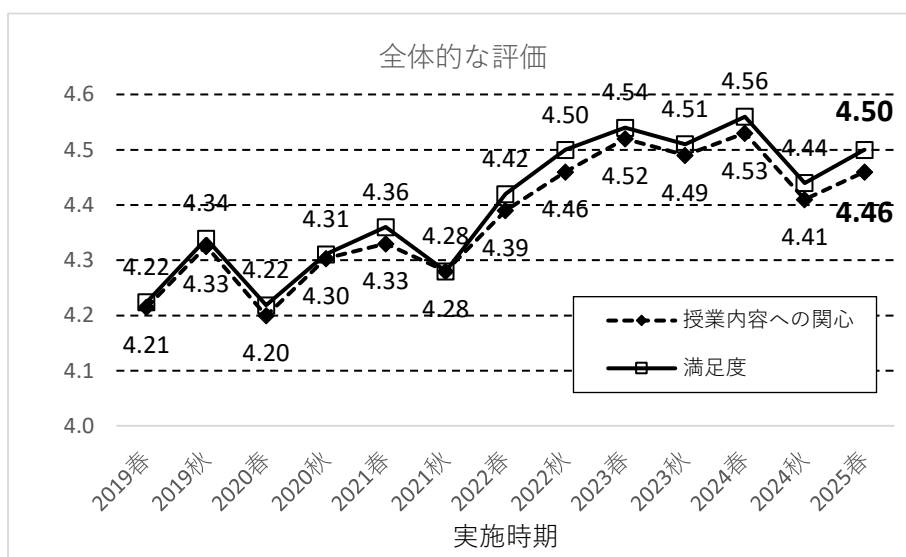
質問 6 から 14 の平均値が 2022 年度秋学期を最高値として、4.57,4.56,4.55,4.54,4.43 と低下傾向にあり、今学期は 4.50 と春学期の状況は低下傾向が続いている、問 10「理解度の考慮」は 2020 年度秋学期より最下位であったが、値は上昇傾向であった。しかし、2024 年度春学期からは下降に転じ、秋学期も引き続き減少し、2025 年度春学期は 2024 年度秋学期より改善したものの、2024 年度春学期よりは減少している。この結果から、履修者の状況への一層の注意が必要であると示唆される。



(3) 全体的な評価

質問 15「この授業に関連する内容への関心が深まった。」と質問 16「この授業を受けて満足している。」という全体的な評価については、ピークであった 2024 年度春学期との差がそれぞれ -0.07 ポイント、-0.06 ポイントと減少し、コロナ禍以降の上昇傾向が同学期比較において減少に転じた。これまで積み重ねてきた授業改善を振り返りつつ、現在の学生の状況に合わせた継続的

な授業改善が求められる。また、授業内容への関心や満足度だけでなく、学生の状況や成績なども併せて、各科目の状況に応じた対応を見出す必要がある。

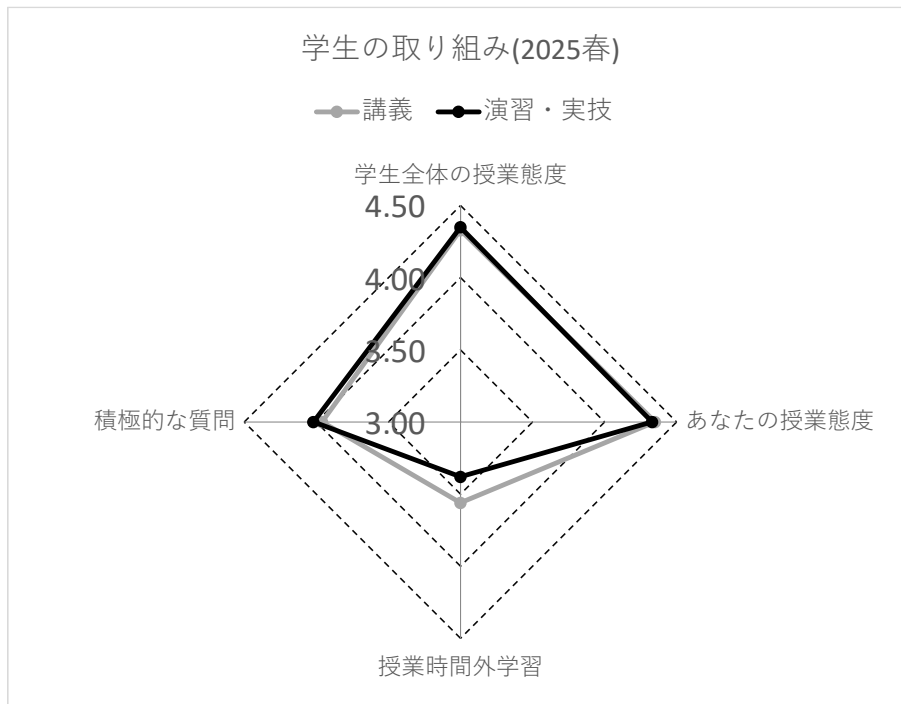
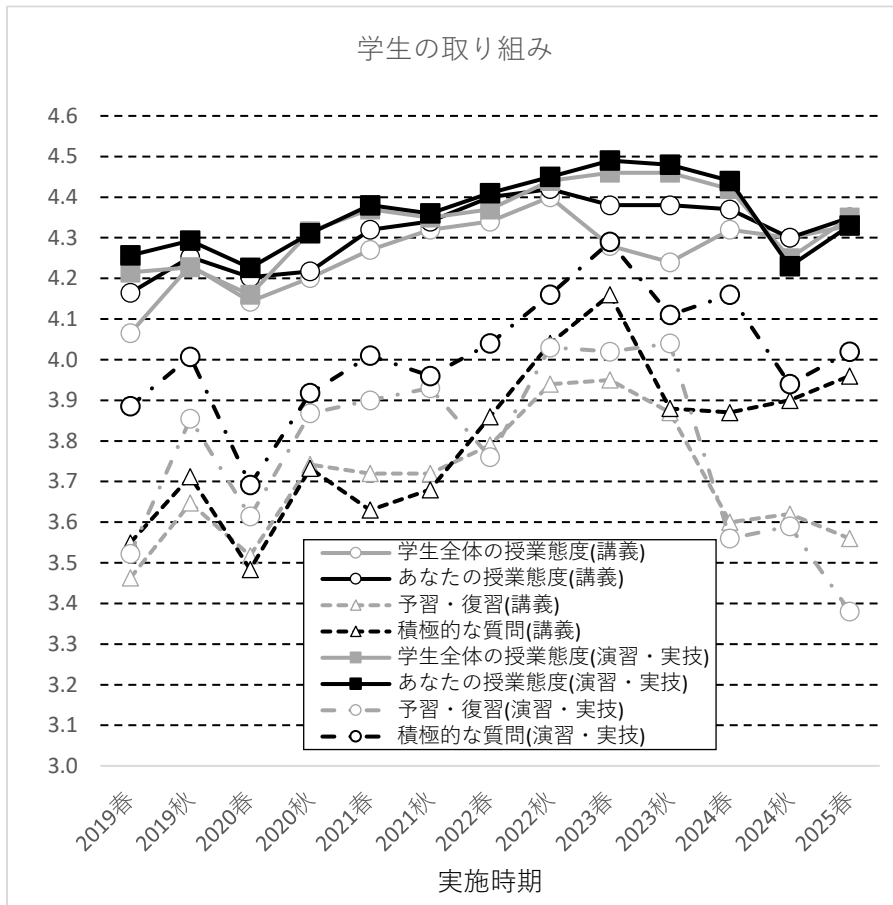


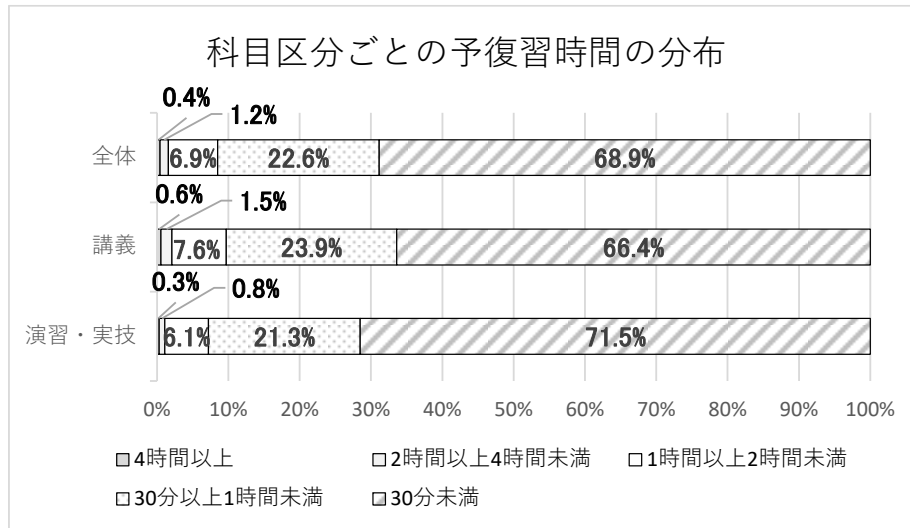
3 講義系科目と演習・実技系科目との比較

3-1 学生の取り組み

質問 1「学生全体の授業態度はよかった。」は講義系が 4.33 に対し演習・実技系が 4.35 と演習・実技系が上回った。一方、質問 2「あなた自身の授業態度はよかった。」(講義系 4.35 > 演習・実技系 4.33)、質問 3「予習・復習を行った。」(講義系 3.56 > 演習・実技系 3.38) については、講義系科目の評価が高い結果となった。質問 4「わからないところは積極的に質問するように心がけた。」は講義系が 3.96 に対し演習・実技系が 4.02 であった。

予復習時間のポイント換算平均値は、実技 0.33 < 演習・実技 0.47 < 演習 0.48 < 講義 0.53 と、講義が演習・実技よりも高い結果であった。この傾向は 2024 年度春学期(実技 0.35 < 演習・実技 0.59 < 講義 0.60 < 演習 0.61)と同様であるが、今回はその差が拡大した。また、演習と実技を分けて比較すると、実技 0.33 < 演習・実技 0.47 < 演習 0.48 < 講義 0.53 の順となり、いずれも演習系の平均値が実技系を上回っている。これは、学期末の自己申告回答であることから、学生の印象として、講義系科目において予復習課題や授業準備の量が、演習系科目よりも多いと感じられた可能性がある。

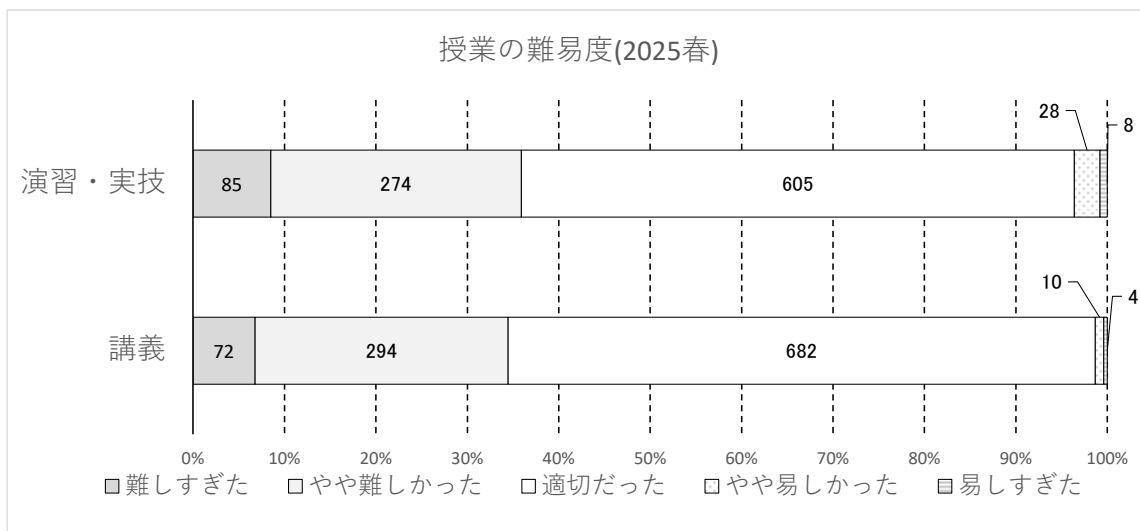


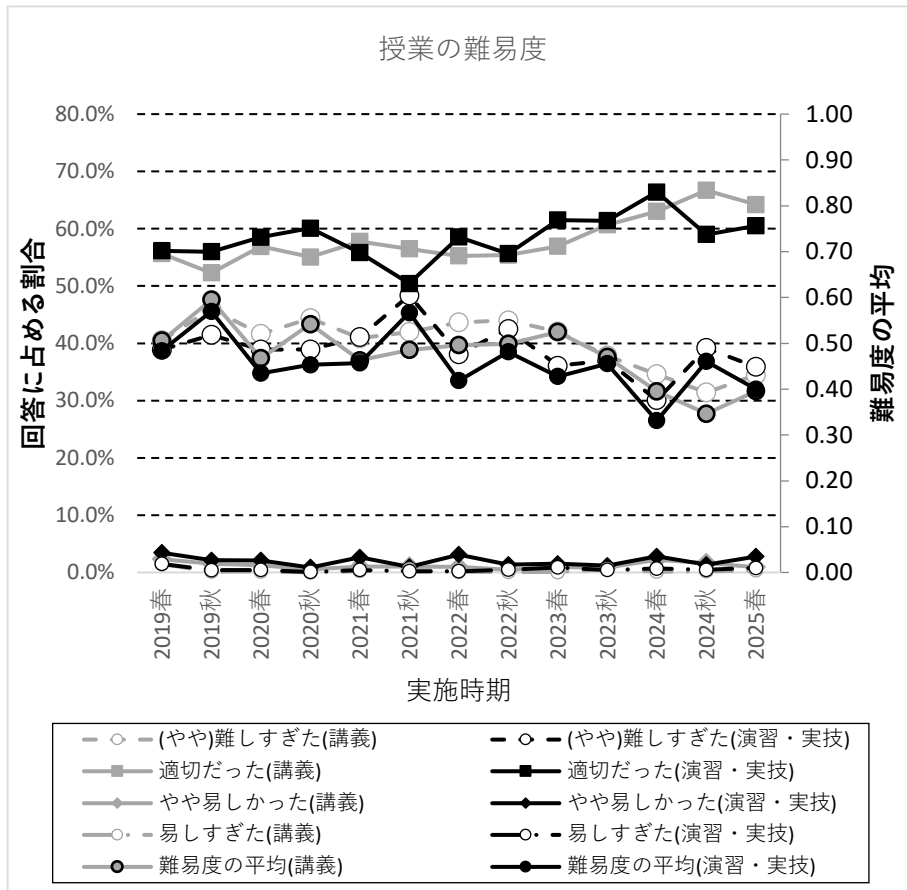


3-2 授業の内容, 方法, 教員の取り組みについて

(1) 難易度について

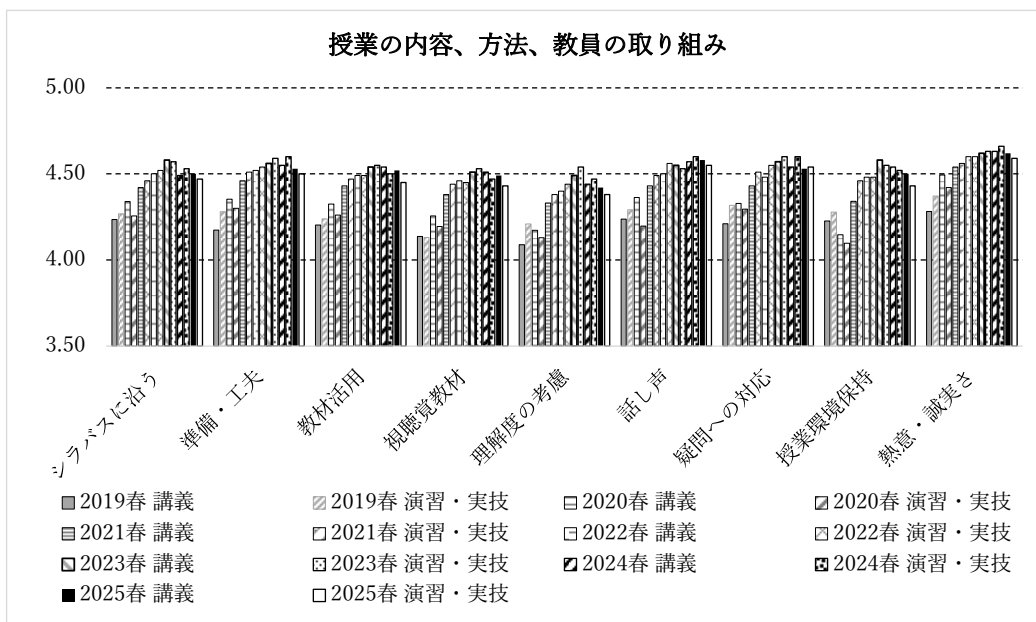
難易度に関して、質問5で「適切だった」と回答した割合は、講義系科目で64.2%、演習・実技系科目で60.5%と、2024年度春学期(63.0%, 66.4%)とは反対に、講義系が高くなった。「難しすぎた」と「やや難しかった」の合計割合は、講義系が34.5%、演習・実技系が35.6%で、演習・実技系が講義系を上回った(2024年度春学期は講義系34.6%、演習・実技系30.1%)。





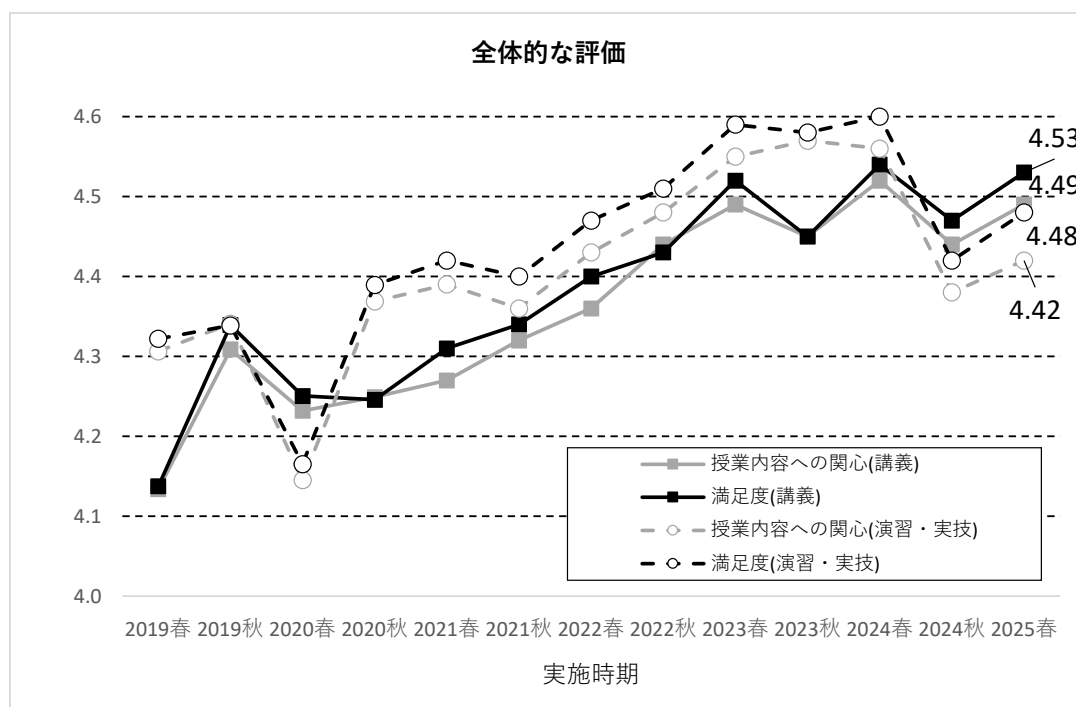
(2) 授業への取り組み

質問 6 から 14 の授業への取り組みに関する平均値は、講義系科目が 4.52 (レンジ 4.42~4.62) に対し、演習・実技系科目が 4.48 (レンジ 4.38~4.59) と、質問 12「疑問への対応」を除き、全般的に講義系が上回った。



(3) 全体的な評価

全体的な評価では、質問 15「この授業に関連する内容への関心が深まった。」(講義系 4.49, 演習・実技系 4.42), 質問 16「この授業を受けて満足している。」(講義系 4.53, 演習・実技系 4.48) と、いずれも講義系科目が演習・実技系科目を上回る結果となった。コロナ禍前の 2019 年度春学期は演習・実技系が高い評価を得ていたことを踏まえると、今回の結果はこれまで上昇傾向にあったものが下降に転じているため、学生の特性変化を留意した授業改善が引き続き求められる。



4 まとめと今後の課題

2025 年度春学期は、全面的な対面授業に復帰して 3 年目となり、本学での遠隔授業の本格的な経験がある学生は 4 年生のみとなった。このアンケート結果によれば、学生の取り組み、授業の内容、方法、教員の取り組み、全体的な評価の全ての項目において、平均値が 4.3 を下回るものはなかった。しかし、教員の取り組みに関する質問 6~14 の平均値において、2024 年度春学期は質問 10 以外は 4.5 を下回るものがなかったのに対し、2025 年度春学期は質問 6, 8, 9, 13, 14 が 4.5 を下回っている。この結果に留意し、次年度の授業を行う必要がある。特に、2020 年度秋学期以降、質問 10「学生の理解度、習熟度を考慮して授業が進められていた。」が継続して最下位であるため、理解度の確認に一層留意することが重要である。

2024 年度秋学期より導入された予復習時間に関する質問項目については、集計結果の評価に加え、学期末のアンケートで当該科目の平均予復習時間をより正確に把握するための質問内容やアンケート実施方法の検討が必要である。一方で、この項目により、学生自身が質問 3「予習・復習を行った。」に対して、より明確な基準に基づいて向き合うことができたと考えられる。

演習・実技系科目の評価が講義系科目に比べて高い評価を得ることは、他大学などでも同様に

見られる。もともと、保育者を志す学生の場合、楽器を演奏したり、身体を動かしたり、制作や作業などが好きで得意であり、アドミッションポリシーにも「表現系の教科（音楽・美術・体育等）についての基礎的な素養とそのいずれかについての積極的な関心が求められます。」とあるため、このような内容には興味関心を持って積極的に学ぶ姿勢がある。しかし、今学期は、全16項目の質問のうち、12項目で講義系科目の評価が演習系を上回った。この逆転現象は、対面授業の全面再開以降、学生の関心が、自身の「好き・得意」に基づく活動よりも、教員からの知識伝達や明確なフィードバックが得られる講義系科目に傾注している可能性を示唆する。

2024年度から実施しているアンケート項目「問19 この授業であなた自身の集中を妨げるようなことが、よくあった。」について、「強くそう思う」と「ややそう思う」の合計割合は全体で30.1%（講義系33.9%、演習・実技系26.1%）であった。その原因「問19a（問19）回答に関連する項目を選択してください[回答をおこなった原因等について選択してください。]（複数回答）」の上位2項目は「自身の眠気」と「周囲の話し声」であり、その回答者に対する割合は、それぞれ、全体(22.9%, 10.1%)、講義系(24.5%, 13.2%)、演習・実技系(21.2%, 6.9%)で、周囲の話し声などの授業環境のコントロールが重要であるのに加え、演習系であっても講義系同様に学生の授業参加状況の確認が必要になっていることが窺える。

今回のアンケート結果を踏まえると、コロナ禍で積み上げられた経験を基に改善が進んだ対面授業への移行は完了し、全般的にコロナ禍前よりも良い授業が実現しているが、学生の状況の変化に伴い、さらなる改善が求められる段階にあると考えられる。中央教育審議会が指摘するように、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である」¹⁾とされており、この視点が引き続き重要である。

AI活用時代を迎える中、教職員は、学生が情報（知識）を批判的に吟味し、課題解決に活用できる学習環境の改善を、学生は、アクセスできる環境を最大限に活用し、自律的に学修に取り組むことが求められる。また、各授業を通して学生が修得した知識や技能および態度を学習成果としてきめ細かく評価し、学生にフィードバックを行っていく仕組みづくりが求められている。対面授業では個別に対応できることから、取り組みが後退することなく、改善が行われているか、確認を続けるプロセスが必要となる。

【参考資料】(1)中央教育審議会(2012) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申).